



女性が働くことについて

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

わたしの聖戦

174

「言っていないこと」「悪いこと」

かつて、「健康」や「衛生」という日本語は存在しなかった。明治に入り、医師で官僚でもあった長与専齋が「hygiene」を「衛生」と訳したのが始まり。江戸時代までは、「養生」や「息災」がそれに代わる言葉だった。

1712年、貝原益軒は、晩年「養生訓」を著した。日本が近代医学を導入するずっと前に、みずからの経験と知見をもつて執筆したこの大著は、長寿のための手引書・心得として、現代にいたるまで受け継がれ人々に愛されている。

その欲とは、「大食」「色欲」「眠りをむさぼる欲」そして「むやみにしゃべりたがる欲」である。「大食」と「色欲」は理解できるが、あとの2つは何故？

本来、睡眠は最大の休養かつストレス発散として位置づけられているはず。恐らく益軒は、眠り過ぎることを怠惰とみなしたのでだろう。おしゃべりすることだって気分転換になるのだが、益軒は手厳しい。これもまた、噂話や悪口はおのれの品格を下げ、人としてみづともないと考えたに違いない。

人の口に戸は立てられないということわざがある。養生訓の中で、欲を抑えよ、との項目がある。



たものだが、今やそれをはるかに凌駕した現実が目に見える。益軒が生きていたら目をむくことだろう。

強い足かせがある。私もたまにテレビからお声がかかるが、コメントがスポンサーの意向に添わないとの理由で放送が没になったことが過去にあった。私の発言は、スポンサーにとっては「言っていないこと」「悪いこと」が世の中にはある。それは学校で学ぶというより、日常の中で、他の人々との交流の中で、自然と学習し身につけるものである。その場の空気が読めず頓珍漢な発言をする人を「KY」と揶揄（やゆ）するのは、それがなされてこなかったことをあつさり曝（さら）してしまふからだ。